

平成28年度 校内研修計画

1 研修主題

「自ら考え高め合う子どもの育成～言語活動の充実をはかる学習活動を通して～」

2 研修の流れと研究主題設定の理由

本校では、数年来「学力の基礎を定着させるための指導とその工夫」について、研究を進めてきた。その中で、子どもたちにつけたい「学力」について

(1) 「読み・書き・計算」に代表される繰り返し（スキルトレーニング）により習得された、全ての学習を成立させるうえで必要不可欠な基礎的な知識・技能

(2) 「学ぶ・考える力」という言葉で表現される、習得した知識・技能を活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

と定義し、①と②は、どちらも欠くことのできない密接な関係にあり、スパイラル的に取り組むべきものであると考えてきた。

昨年度は、「自ら考え高め合う子どもの育成～言語活動の充実をはかる学習活動を通して～」を研究主題とし、言語活動の充実を図る学習活動を通して子どもの思考力・判断力・表現力を高めていくことに取り組んだ。授業の中に「めあて」と「ふりかえり」を位置づけ、学習活動を明確にすることにより、学習内容に対する理解が深まり、学力テスト等の結果からも各教科における基礎的・基本的な知識・技能が高まったことがうかがえた。しかし、その反面、次のような課題も見えてきた。

○ 自分の考えを表現するための語彙力が不足している

○ 自ら意欲的に調べたことをまとめたり、整理したりする力がついていない。

○ 正確に文章を読み取ったり、適切に資料を見たりすることができない。

そこで、今年度は、言語能力を育む中核となる国語科を中心に、言語活動の充実をはかる学習活動について研究に取り組むことにした。

3 めざす子ども像

自分の考えをもち、表現できる子

気づきや考えを伝え合い、学びを深める子

4 研究内容

(1) 基礎・基本の定着

「朝学習」

漢字練習・計算・読み取り・音読練習（国語・社会・理科）・読書を、全学年で統一して取り組む。

問題集・資料を選択し、学年間の系統性を図る。

「放課後学習」

火・木の放課後に、3年生以上で行う。

各担任で適切な内容を考え、低学年担任・専科担当が補助する。

「家庭学習」

各学年児童の実態に合わせて内容を具体的に示した「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と連携し、協力して取り組む。

全校で統一した「音読カード」を使って音読練習に取り組む。

(2) 学力・学習を支える言語活動の充実

「めあて」と「ふりかえり」

授業での位置づけとともに、今年度は国語科における「めあて」と「ふりかえり」の関

係や「ふりかえり」の内容（子どもがふりかえりやすい）について焦点をあてる。
「音読発表会」

日々の音読練習を意欲的に、また、目的意識をもって取り組めるようにするために、各学年学期に1回程度、発表の場をもつ。（全校・学年部など）

「読書活動」

図書室の利用を促し、児童一人ひとりの読書量を増やす。

一斉に読書に取り組むために、「読書の時間」を設定する。

図書館補助員を活用し、読書への興味・関心を高める。

魅力ある図書館づくりを工夫し、読書に親しめる環境を作る。

（3）日々の学習活動の充実

「プチ公開授業（5分程度）の推進」

導入・展開・まとめなどどの部分でも良い。

教師自ら自主的に、意欲的に行い、互いに力量を高める。

一人の児童を全職員が理解し成長を見守る機会にもなる。

「情報機器の活用」

積極的に情報機器を活用し、学習に生かす。

効果的な活用方法を工夫し、教師間で紹介し合う。

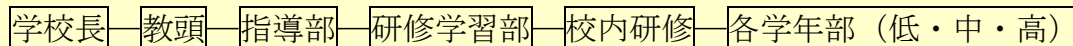
（4）地域学習の推進

生活科・社会科・総合的な学習を中心に地域学習に取り組み、カリキュラムを作成する。

地域密着型の学校である利点を生かして、積極的に地域に出て学ぶ機会を設ける。

祭りや行事などへの参加を通して、地域の人と交流する。

5 研究組織



6 年間計画

月	内 容
4 月	研修の基本方針と年間計画の作成
5 月	国語科指導の研修
6 月	研究授業（3 学年・6 学年）
7 月	研究授業（5 学年・B 組）
8 月	1 学期の反省と 2 学期に向けて
9 月	
10 月	研究授業（1 学年・専科「体育」）
11 月	研究授業（2 学年・4 学年）
12 月	2 学期の反省と 3 学期に向けて
1 月	
2 月	今年度の反省
3 月	次年度に向けて

* 研究授業に向けて、各学年部で指導案を作成し、全体会で検討する。